



令和5年度 校長だより

令和6年1月9日(火)

# 春日の風Ⅱ

No.9

文責 松下 義彦

## 新しい年のスタートにあたり

みなさん あけましておめでとうございます。

今日は令和6年(2024年)、新しい年の春日中学校のスタートの日であり、後期後半の始まりの日です。それぞれの学年のまとめをする時期に入ります。とりわけ3年生にとっては中学校生活最後の時であり、自己の進路を決定する大切な日が続きます。何事にも悔いの残らないよう全力を出し切っていくことを願っています。また、1・2年生も進級を前にして、基礎をしっかりと固めて、充実した生活を送ることを期待しています。

年の始めには誰もが「今年こそは」と、心に期した抱負があると思います。しかし、その気持ちも一日、二日と日が経つにつれて薄れ、惰性に流されてしまうことがあります。一度立てた目標を忘れずにその実現に向けて努力することが大切です。人間は夢や希望、目標があるから頑張ることができるのです。目標は人によって異なります。目標の立て方も長い将来を見据えた大きな目標もありますし、明日をどうするという小さな目標もあります。私たちは目標をとにかく大きなものにしがちです。そして、とてもそこには到達できないと知った時、あきらめてしまいがちです。そうならないためには、目標を何段階かに分けて立ててみるというのではないのでしょうか。つまり、大きな目標に近づくための小さな目標を順位を付けて定めるのです。目標は一度決めたら変えられないというものではありません。それぞれ自分に合った目標をもって生活してください。新年の新たな決意を一つでも実行し、一人ひとりが輝いていくことを願っています。

さて、話は変わりますが、今日は「思いやり」について話をします。

校長先生が掲げている学校教育目標の中にも「自他を思いやる精神の醸成」とありますが「思いやり」とはいったい何でしょうか。学校はみんなで一緒に学習し生活する場所です。一緒に学習し、一緒に生活することは、とても大きな意味があり、社会人として必要なことを、たくさん身に付けていくことができます。その中の一つが「思いやり」です。学校に来るといろいろな仲間がいます。とても元気な人、おとなしい人、勉強が好きで嫌いな人、運動が得意な人そうでない人など、それぞれ個性や特性が違う仲間がたくさんいます。そんな仲間同士が、助け合ったり、協力し合ったりするのが学校です。そこで大切になってくるのが「思いやりの心」です。よく「思いやりのある人・ない人」なんて言い方をしますが、人間関係を作っていく上では、思いやりの心はとても重要です。しかし、自分では思いやりのある行動を示したつもりが、相手に嫌な顔をされたり、うまく伝わっていなかったりというすれ違いも起きます。「人に対して優しくしているつもりだけど、なんだかうまくいかない」なんてことがあります。では、それはなぜでしょうか。次のような場面を想像してみてください。

数学の問題を解いているとき、答えが分からなく困っている人がいます。さあ、あなたならどうしますか？

- ① 答えだけをすぐに教えてあげる。
- ② 答えは教えずに、答えを導き出す計算式を教えてあげる。
- ③ その人が何に困っているのか(問題の意味なのか？解き方なのか？計算の仕方なのか？)を聞き、その部分についてのアドバイスをを行う。

「思いやり」とは、他人の心情や身の上などに心を配ることやその気持ちのことであり、本当の「思いやり」とは、相手の気持ちになって考え、相手の立場に立つことが大切です。自分が満足するのではなく、相手の置かれた状況に心を配り、どうしたら相手に喜び、満足、安心を与えることができるかを考えることが、本当の「思いやり」なのではないでしょうか。

思いやりとは「自分の考える優しさや気遣いを押し付けるのではなく、相手が本当にしてもらいたいことをしてあげるように心がけること」と校長先生は思います。

みなさん、今年一年間、本当の「思いやり」について考える年にしてみませんか。

為せば成る ～「強い意志」と「あきらめない心」～

